

第16号

平成 28 (2016) 年 10 月発行

南風

MINAMI KAZE

「南」は母校のある南港を、「風」は便りに通じ、
「南港からの便り」という意味をこめて名づけました。

—発行所・連絡先—

相愛大学人文学部同窓会

〒541-0053

大阪市中央区本町 4 丁目 1-23

TEL/FAX (06)6261-2040(直)

E-mail sj-dosokai@soai-jinbun-dosokai.org

URL <http://soai-jinbun-dosokai.org/>



Studio Mezzo (旧: U-136 教室) にて撮影



会長

一階 由香

ご挨拶

猛暑、酷暑の夏を経て、少しばかり過ごしやすくなったこの季節。みなさまにはいかがお過ごしでしょうか。きょうは、ちょっとしたひとりのコーナーです。

自然災害、社会の変化…どれを見ても平坦な動きをしているものはなく、目まぐるしく変化し続け、ともすれば置き去りにされそうなことが少なくありません。

わたしは仕事から若い人たちと接することが多く、そういう意味では毎日刺激的ではありますが、時折、いわゆるジェネレーションギャップ（世代間格差）を感じることもあります。ただ、その若い感性になるほどなぁ…と思うこともしばしば。

卒業してから30年近い時が流れました。ということは、それだけの時間の分だけ「人と出会い、別れ」、「楽しさ、つらさを味わい」、「ものごとを見聞し」…経験を積んできたということになるのです。自分だけを見ると「ほんとにこんなでいいのかなぁ」とか「この年齢で、コレっていいのかなぁ」と思うことが、多くの場面であります。

数字だけでは測れない年齢と経験値…若い人を見ていても「この人にはかなわないな」と思うこともあります。かの『ロゼッタ・ストーン（1799年発掘・紀元前196年の勅令が記されたメンフィスの碑文）』に記された落書きには「最近の若い者は…」という愚痴（嘆きのことば）があり、日本では奈良時代や平安時代の書き物の中にも、似たようなことばが並ぶようです。つまり、年長者が年下の者に対して否定的なことを言うのは、今にはじまったことではなさそうで…人類はじまって以来の「ネガティブ有史」かもしれません。

でも、今の若い人たちを見てみると、どんどん新しいことを取り入れて、「自分たちの文化」を創造しています。あの柔軟性はすばらしいと思いますし、見習いたいところでもあります。そして、果てしなくアナログなわたしは、その若い人の助けなくしては仕事もプライベートも成り立たないほどです。

身近な異文化交流も、グローバルな異文化交流も、なんとかうまくいかないものでしょうか…。

なぜ、人はものごとに優劣をつけるのか、というより、「劣」を作って排除したがるのか…。半世紀しか生きていないわたしの疑問です。



相愛大学学長

金 児 曉 嗣

ご挨拶

平素より、一階会長をはじめ人文学部同窓会の皆さまには、相愛大学の充実・発展のためにご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。今年で結成33年目を迎える人文学部同窓会は、卒業された皆さまが相互に親睦を図ると同時に、在学生にとっては大学と社会をつなぐ架け橋となる重要な存在です。長年の知識や経験を活かして本学を支えてくださっていること、またそれぞれの地域社会において貢献されていること、まことに心強く思っています。

近年、我が国の大学はその特色と個性をどこに置くかを明記し、それを具現化することが求められています。相愛大学は「當相敬愛」（お互いに敬い合い、慈しみ合う）の建学の精神を踏まえ、地域に貢献する大学をめざすことを使命の一つとしています。

人文学部では、仏教と落語、宗教心理学など、相愛大学ならではの各種公開講座を開催するこ

とによって市民の生涯学習の機会をつくり、また仏教文化コースの教員を中心に市民仏教講座を開催して浄土真宗のみ教えに触れていただくなど、大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に還元する取り組みを行っています。とりわけ昨年度は、大学の教育改革経費による「社会人基礎力育成プログラム」の一環として、大阪文化をテーマとした「らくご こわい!？」を学生諸君が企画し、上方落語協会の協力のもと天満天神繁昌亭にて公演したところ、大きな反響を呼び、大盛況でした。

卒業生の皆さまもぜひこれらの公開講座に参加いただき、人文学の楽しさを味わい、大学との絆を深めてくださればと存じます。

私たちは今後も、卒業生の人脈を大切にしつつ、地域の人たちにも親しまれる大学をめざし、教育の使命と責任を果たしていきたいと存じます。これからも変わらぬご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



人文学部長

益 田 圭

学部長挨拶

昨年4月より人文学部長を務めています。平成12年に相愛女子短期大学人間関係学科に就任し、平成17年には人文学部現代社会学科へ、平成23年に仏教文化学科、そして平成25年より人文学部へと、所属が変わってきました。こうした人文学部の激動の中で、さまざまな個性をもった学生たちと出会い、その門出を見送ってきました。こうした学生たちが立派にそれぞれの進路で活躍していると思うととても感慨深い思いです。

現在の人文学部人文学科は「日本文学」「歴史・サブカルチャー」「仏教文化」「心理」「国際コミュニケーション」「ビジネス・社会」という

6専攻を持つ1学科6専攻体制です。1回生の授業「基礎演習」では、「少子社会」「国際コミュニケーション」「仏教文化について」というバラエティに富んだ発表が並びます。一見バラバラのようですが、こうした発表の中で、やはり大切なのは「相手を尊敬すること」や「十分な教養」だという共通の発見があったりします。幅広い視野から人文学について学ぶことができる、とてもおもしろい体制です。

まだまだ激動の真っ直中で、これからも変化は続いていくと思いますが、人文学部が大切にしているものをしっかり学生たちに伝えていきたいと思っています。卒業生の皆さまからのこれまでと変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

第8回 相愛大学人文学部同窓会 総会

第8回 相愛大学人文学部同窓会 総会



❖ 総会報告

～ 平成27年8月29日（土） 於：ホテル阪急インターナショナル ～

あれから1年と少しの時間が流れ、みなさまにおかれましてはそれぞれに平穏な日々をお過ごしのことと存じます。

少し時間を巻き戻してください。平成27年8月29日の午後のひとときを思い出して懐かしい顔を思い出してくださいましたらうれしく思います。

まだまだ暑さの厳しい8月の終わり、大阪は「キタ」と呼ばれる繁華街の一角のホテルに華やかな一団が…最近ではグランフロント大阪が人出の多くを集めており、反対側にあたるこの周辺はどちらかというと一部のショッピングモールねらいの若者が集中するエリアとなっている。そんな若者たちとは趣きを異にする華やかな一団である。

この日、「相愛大学人文学部同窓会」が催されることになっているホテル阪急インターナショナルには午前中からスタッフと思しき数人の姿が見られた。かれらは数か月前からこの日のために入念なる打ち合わせを繰り返し、当日を迎えた。しかし、会長の姿はない。残念ながら会長は間に合うかどうかかわからない。午前中の仕事を済ませて合流するといっていたが、どうなることやら…

最終打ち合わせと、手順の確認を行い、それぞれの持ち場へ…

受付、場内整備、先生がたの接待、もちろん同窓生への対応 等々…

受付は出席者がまず顔を合わす、重要

な場所である。しかし、そこは「同窓生どうし」なので、年齢の差こそあれ堅苦しくなるわけではない。むしろ、時を超えて表情の緩む場所といえる。先生がたの来訪にはより一層の笑みの花が咲く。懐かしい笑顔の集合は時の流れの溝を埋める。そして、「同窓生」の名の下に年齢の溝も埋められるのである。何とも不思議な空間が「同窓会」である。

理事長・学長の金児曉嗣先生が急遽所用で欠席になったのは残念であったが、学部長 益田 圭先生のご挨拶をいただき、なんとか駆け込んだ会長も挨拶を述べ、会は懇親会へと進んだ。

このころになると、前で繰り広げられる通常報告や、審議事項はそっこのけで旧友との話に文字どおり花が咲き、同時に腹の虫も元気になってくるわけで、参加者の興味は目の前の料理へと移る。

そこで、乾杯の音頭をとってくださるのは、長野孝男先生。長野先生は人文学部創設からかわってくださったおひとりで、草創期の学生にも懐かしい先生である。ひとつひとつのことばに懐かしさと思いがよみがえる。

あのころの自分と今の自分と…同じ人間ではあるが決して同じではない。仏教的に言えば諸行無常ということになるのであろうが、まだまだそこまでの境地に達すべきはでもない面々である。

同窓生といってもその中には親子ほどの年齢差があり、高校生の子どもを連れ

て来たというお母さん同窓生の姿も複数あった。学生時代の自分の姿を見せるといのは勇気のいることかもしれないが、それができるというのは自分の学生時代が幸せだったからのだろう。だからこそ自分の子どもに見せたいと思えるのだろう。そんな幸せな時間を過ごせたことはかれらにとってだけでなく、周囲のものにも、なにより先生がたにも得難い幸せだといえよう。

懐かしい人との語らいの時間は、なぜこんなにも速いのか…

「今度は、〇〇ちゃんも誘おう!」

「〇〇先生、いらっしゃらないのかな…」

「△△先生、お元気そうよね」

「◇◇ちゃん、次も来ようね!」

と、楽しかった時間を惜む声や、次に期待する声が聞こえる中、同窓生たちはそれぞれの現実へ帰っていった。

当日は先生がた18名、同窓生38名（スタッフを含む）、同伴者2名の出席をいただき、盛況な総会、懇親会となりました。次へつながる同窓会のため、若い世代の参加も広くお待ちしています。卒業したばかりというのはあまり「同窓会」という気分ではないかもしれませんが、少しずつつながっていきましょう。

多くの同窓生がつながる会としての「同窓会」、次回の参加を心よりお待ちしております。

先生からのメッセージと当日の様子

後藤田輝雄 先生

相愛の楽しい思い出をありがとう。
また、お会いしましょう。



北口いく恵 先生

卒業生の皆様、お元気で御活躍のことと存じます。一昨年、退職し親の介護中心の日々を送っています。
当日、お目にかかるのを楽しみにしております。



長野 孝男 先生

相愛大学人文学部卒業生の皆様ご無沙汰しています。
皆様のお蔭で大学も大きく成長しました。
これからもよろしく願いたします。



野呂 忠司 先生

皆さん、お元気ですか。
教員生活も残り少なくなってきましたが、まだ現役で頑張っています。
懇親会でお会いできるのを楽しみにしています。



本多 至成 先生

皆様お元気でご活躍のことと存じます。
楽しい思い出を沢山いただきました。
私も73才になり皆様にご迷惑やご心配をいただく年齢になりました。
皆様が幸せ多き人生を送られますことを心より念じております。



北崎 契縁 先生

2年前開催された人文学部創設30周年記念の同窓会を思い出していました。
ともすれば「有効性」ばかりを求める現在にあって、人間の「真実性」を探究する<人文学>の存在価値はますます必要になってくると信じてやみません。
同窓生お一人お一人のご精進を念じています。



西井 恵子 先生

同窓生皆様のご健勝とますますのご活躍・ご多幸をお祈りしています。
大学生活での学びを自分の人生に生かしてもらっていると嬉しいです。

中西 健治 先生

大学の教員になりたての私には相愛大学のすべてが輝いて見えました。
今もその時を思い出して胸の高鳴りを覚えます。
現在は立命館大学文学部の特任教授として、相愛変わらず平安時代の物語を勉強しています。
お会いできることを、楽しみにしています。

先生から



石川玲子先生

皆様、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

私は現在人文学部人文学科国際コミュニケーション専攻の授業を主に担当しながら、国際交流部長として留学生の学業・生活の支援にも関わっています。

昨年の同窓会には、英語研修の引率でイギリスに滞在中であったため出席できず、残念でした。現在相愛大学では、英国ウェールズ地方のバンガー大学と、米国ハワイ州オアフ島にあるハワイ大学マノア校での夏期英語研修プログラムを実施しています。これらのプログラムでは、約3週間ホームステイを

しながら英語や文化を学びます。今年はハワイ大学でのプログラムに数名が参加することになっています。

海外研修に参加するのは一部の学生ですが、近年相愛大学のキャンパスが、まさに異文化交流の場となっています。留学生のほとんどは人文学部の学生です。彼らの出身地は、中国、台湾、韓国、ベトナム、インドネシア、パキスタン、ロシア連邦と多岐に亘り、授業や日常のやり取りの中で、文化の違いを実感し、驚くことも少なくありません。学生たちがそのような交流を通じて、柔軟なものの見方を育み、弱い立場にある人に寄り添うことのできる寛容さを身につけて、これからの多文化共生社会で活躍してくれることを願っています。今後とも皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



呉谷充利先生

卒業生の皆さま、お元気ですか。万緑の季節を迎えております。今夏は春過ぎぬうち、早や夏日でした。八月の暑さが気になります。

大学からおたよりします。

今、人文系は、昨今の理系や実学重視の気風に押されて、何となく影を薄めているような感がありますが、大学における学問は人文学なくしては本来の意味を失ってしまうように思われます。人文学科に身を置く一人として大いに踏ん張って未来につなぎたいものです。

人文学部のうれしいニュースの一つとしましては、昨年の『南風』（相愛大学人文学部同窓会発行）に紹介されま

した本学の卒業生であります荒井真理亜さんが専任の教員として着任され、若い力をフルに発揮していただいていることでしょうか。荒井先生と同様に卒業生の皆さまのご活躍を念じております。

人文学部は、地の大阪の文化を大切にしながら、教員が学生とともに「ぶんぶん」君（人文学部マスコットキャラクター）に励まされ、「大阪に相愛の人文学あり」の旗印をもってがんばっています。因に本年の公開講座は「人文学の御堂筋」（本町学舎にて）。

小生も、この三月で、ほぼ四半世紀お世話になりました、思い出深い本学をあとにします。

皆さまのご健康をお祈りして、ペンを置きます。

（平成28年6月初旬 筆）

● 平成28年度大学イベント情報 ●

- 10月15日(土)) 大学祭
- 10月16日(日)
- 10月29日(土) 人文公開講座「人文学の御堂筋」
(本町学舎F604)
- 11月12日(土) 相愛寄席(本町学舎講堂)
- 11月18日(金) 相愛ウィンドオケ第38回定期演奏会
- 12月5日(月) 相愛オケ第66回定期演奏会
- 12月20日(火) 音楽学古楽実習発表会
- 12月25日(日) 学内オペラ公演

- 1月9日(月) 吹・相・楽への誘い
- 2月4日(土) 人文公開講座「人文学の御堂筋」
(本町学舎F604)
- 2月11日(土・祝) 大阪人の解体新書!?
- 3月2日(木) 相愛オケ第67回定期演奏会

※詳細については大学HPにてご確認ください。

\\ 新幹事のご紹介 /



平成28年4月より新たに8名の学年幹事が増えました。

日本文化学科

大菅さつきさん
風間 瞳さん
長野 翔太さん

仏教文化学科

浅井 順顕さん
小林 育美さん
松本恵理子さん

文化交流学科

三和 諒子さん
吉田 有希さん

ごあいさつ

幹事の話を受けたのは、卒業式当日でした。お世話になった学部になんて少しでもご恩返しができればと考えております。
(小林)

同窓会からのお知らせ

住所・氏名の変更について

学科名・卒業年・氏名(旧姓)・電話・FAX番号・郵便番号・住所・会員番号(会報郵送時の封筒に記載)をこれまでと同様、同窓会室宛にお知らせください。ハガキ、FAX または同窓会ホームページのご住所変更フォームにてお願いします。(同窓会ホームページからもお知らせいただけるようになりました)

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23 相愛学園内同窓会室 / FAX 06-6261-2040

相愛大学人文学部入試・イベント情報

種別	日程
推薦A入試	11月13日(日) 出願期間 10月24日(月)～11月1日(火)
オープンキャンパス	11月20日(日)
推薦B入試	12月11日(日) 出願期間 11月25日(金)～12月2日(金)
オープンキャンパス	12月18日(日)
一般A入試	2月1日(水) 出願期間 1月17日(火)～1月24日(火)
一般B入試	2月28日(火) 出願期間 2月13日(月)～2月20日(月)
一般C入試	3月23日(木) 出願期間 3月10日(金)～3月17日(金)

中学・高校入試イベント情報

10月29日(土)	音楽科対象入試説明会
10月30日(日)	第一回中学プレテスト
11月5日(土)	第一回高校入試対策講座 入試説明会
11月12日(土)	第一回プレテスト復習講座 成績懇談会
11月19日(土)	第二回高校入試対策講座 入試説明会
11月23日(水・祝)	第二回中学プレテスト
12月3日(土)	第二回プレテスト復習講座 成績懇談会
12月10日(土)	第三回高校入試対策講座 入試説明会
1月7日(土)	中学入試直前対策講座



訃報

- ・平成27年9月21日ご逝去 大村 英昭先生
- ・平成28年9月11日(ウズベキスタンの病院にて) 加藤 九祥先生

先生方のご遺徳を偲び、謹んで追悼の意を表します。

合 掌

過去帳 納め

同窓会にお知らせがあった物故者のお名前(同窓生)を、毎年2月に大谷本廟の学園関係者過去帳に記入し、納めさせていただいております。

着任・退職

平成26年度 ご退職

橋 元 淳一郎
前 垣 和 義
桑 原 義 登
直 林 不 退
大 村 英 昭

平成27年度 ご退職

小 野 真

平成28年度 着任

井 上 陽

敬称略



編集後記 editorial note

昨年行われました総会には、たくさんの方々にお越しいただきありがとうございました。

短い時間でしたが、懐かしいひと時をお楽しみいただけましたでしょうか？

参加できなかった方にも、今回の誌面で当日の様子をお伝えできれば幸いです。

これからも日々発展し続ける“人文学部の現在(いま)”を皆さんにお届けできるよう尽力して参ります。

「南風」はご希望の会員の方へのみ郵送しております。

郵送をご希望でまだ申込がお済みでない方は、同窓会のホームページのお問い合わせフォームからお知らせください。

編 集 委 員

浅井 順顕 一階 由香 大迫 秋穂 小松 愛
竹田美奈子 中村 則子 森本 裕子 安田 圭佑
山田 容子 (五十音順)